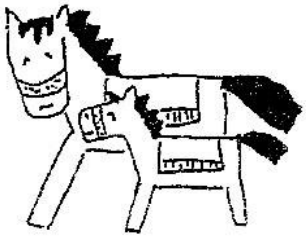
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

29年 8月 NO.273



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
http://oumanooyako.sakura.ne.jp/

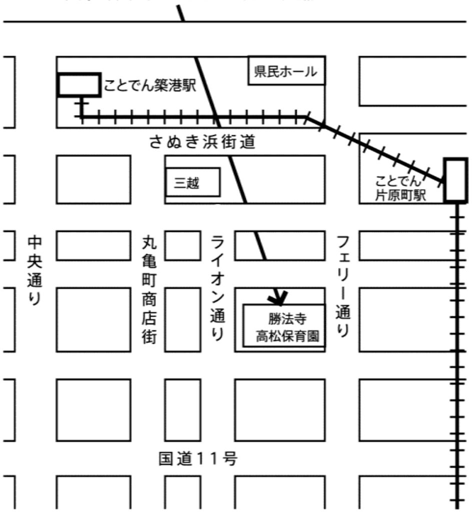
(厚生労働省･高松市委託事業)

～どなたでも～ 8月の主な活動 ～お気軽にどうぞ～

8月 12日	土	体 験 保 育 10：00～12：00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
8月 12日	土	おとなアート 14：00～16：00	アルミ針金に新聞紙を巻きつけパイナップルを作り和紙を貼っていきます。小学生もどうぞ。（予約8/8まで）
8月 18日	金	香川みすゞさんの会 14：00～16：00	四国電気保安協会の細川真由美氏から電気に関するお話を聞きフリートークします。
8月 19日	土	体 験 保 育 10：00～12：00	出産予定の方も育児体験をしてみましょう。
8月 25日	金	おはなしの会 10：00～11：30	「暑さに負けない子！」をテーマに大型絵本やパネルシアターなど楽しいことがいっぱいあります。
8月 25日	金	健康・育児相談 11：00～12：00	園医師（小児科）にゆっくり 相談できます。（予約要）
8月 26日	土	地蔵盆のつどい 15：30～18：00	縁日や人形劇、盆おどりなど夏の終わりの行事です。どなたでもどうぞ。

・火～土の9:00～18：00までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。 （但し、月・日曜・祭日は休み）	育児相談（月～土）9：00～18：00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター

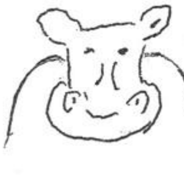


なまえ

にんげんって
よばれたら
ぼくは いやだな
ぼくの
おかあさんが
よんでいる
うれしい なまえ
あるんだもの

かばって
よばれたら
かばは いやだね
かばの
おかあさんが
よんでいる
すてきな なまえを
しりたいな

矢崎節夫童話集
「きらり きーん」より



子どもとの関わり方ワンポイント No2

真正会富山病院心療内科　明橋　大二

～子どものけんか～

子どものけんかは、大人のけんかと違って、ともて大切な意味があります。まず、けんかになるということは、自分の主張をぶつけているわけで、自己主張の練習をしているのです。またけんかになるということは、相手は自分と違うことを主張してきているわけですから、自分とは違う意見や気持ちが世の中にあることを学んでいます。また、最後には仲直りしないといけませんから、仲直りの方法も学んでいます。けんかは子どもが人間関係を学ぶ、大きな機会になっているのです。

ですから、子どものけんかは基本的にはやらせておく。下手に大人が介入しないことを原則とします。むしろ、大人が介入するからよけいにこじれることも少なくありません。そして、一通りけんかして落ち着いたら、双方の事情を聞く。このとき、それぞれの子どもの気持ちを酌んで、でも相手の気持ちも伝えて、「これからはこのようにしようね」と仲直りに導く、それが基本的な大人の役割だと思います。

しかし、やらせておくといっても、どうしても介入せざるをえないこともあります。たとえば、攻撃が一方的なとき。手が出たとき。一方が泣いたとき。そういうときには、「はい、やめー」と言って、強制的に二人を引き離して、落ち着かせることも必要です。

ただ大事なことは、私たちはつい年上の子を叱り、年下の子をかばってしまうことが多くなります。年上の子に、年下に優しくすることを教えることも必要ですが、年上の子はその子なりにいろいろがまんしていることもあるのです。年下の子が自分の物を勝手に取っていくとか、自分の邪魔をしてくるとか。そういうときに年上の子の話を聞かずに一方的に叱ると、それを恨みに持って、大人の見ていない所でいじめる、ということもあります。年上の子もその子なりの事情を抱えている、それを察してやることも時には必要です。

しかし、いつも大人の余裕のあるときばかりではありません。じゅうぶん話を聞く時間がないときもあります。そういうときは、「はい、けんかは終了！一緒にアイスでも食べようか」と気持ちを別の方向にそらせて、その場を収めることも、一つのテクニックです。

～子どものがんばりを認める～

私たちは、子どもによく「がんばれ」と言います。

確かに、「がんばれ」と言われて、「がんばろう！」と思えるときもありますが、逆に、よけいつらくなることもあります。これ以上がんばれないくらいがんばっているときに、「がんばれ」と言われると、今のがんばりを否定されたような気がするからです。

これは大人でもそうだと思います。

たとえば、あるお母さんを例にとってみると、毎日朝から晩まで働きながら、家事育児に追われて、これ以上できないくらいやっている。それなのに、夫から家の掃除や片づけをいちいちチェックされて、「もっとがんばって掃除しろよ！」と言われたらどうでしょうか。「そんなこと言うなら、あなたがやったら？いつもテレビばっかり見てるくせに！」とよけい腹が立ちます。

一方で、あるお父さんを一例としてみてもそうです。毎日残業でこれ以上できないくらいやっている。それなのに、上司から「もっとがんばって外回りしてこいよ！契約の一つや二つはとってこい！」と言われたら、「これ以上どうすればいいの？」と腹が立つでしょう。

逆に、夫から、「いつもよく家事も育児もがんばってくれてるね。ありがとう」と言われると、今までいっぱいいっぱいになっていても、すーっと楽になります。

お父さんも、上司から「いつも遅くまでがんばっているね。ご苦労さん」と言われれば、もっとがんばろう、という気持ちになることもあるでしょう。

子どもも同じです。子どもなりに、保育園などでがまんもし、家でも怒られながらも、がんばっているかもしれません。それを「あなたなりにがんばったね」と言ってもらうほうが、よけいやる気が出るのではないでしょうか。

ですから私は、「がんばれ」よりも「がんばってるね」いう言葉を使うようにしたらどうかと思っています。

「ほめる」より「認める」。わざとらしいほめ言葉よりも、現在やっていることを見つけて、「がんばってるね」と認めていく。それによって、子どもの自己肯定感が育つのではないかと思います。

最後に、お金や物を与えるほめ方について聞かれることがあります。確かに、本人のがんばりを認めている点ではいい面もありますが、それによって、逆に「お金や物をもらわないと動かない子ども」にしてしまう心配があります。

私たちが本当に育てたい子どもは、お金や物をもらわなくても、人の喜びを我が喜びとして生きていく子どもではないでしょうか。そのためにお金や物は必要ありません。ただ「ありがとう！」「助かったよ！」と笑顔で伝えるだけでじゅうぶんではないかと思います。

～祖父母に過保護に育てられてわがままに？～

このような相談がありました。

「5 歳の長男が、2 歳下に次男が生まれたときに祖母にみてもらってから、祖母になつき、いつも一緒に寝ています。祖母に過保護にされたせいか、わがままで、下の子をたたいたり、下の子の物を取ったりします。厳しく注意するのですが、言うことを聞きません。どのように接したらよいでしょうか」

この子は祖母が大好き、その祖母に大事にされているんだから、じゅうぶん満足じゃないか、と思いますが、そうではありません。

この子は、本当は、お母さんが大好きなのです。でも、それが素直に言えなくて、ついつい反抗的な態度をとる。すると、母親は強く叱る。子どもは叱られるのが嫌で、思わず優しい祖母のほうへ行く。でも本当は、母親のそばにいたいのです。そんなときに、弟が母に抱っこされて、ニコニコしているのを見ると、ついうらやましくなって、弟をたたいたり、弟の物を取ったりするのです。ですからこれは、決してわがままではなく、「お母さん、ぼくのことも見て！」というサインなのです。

このままでは、いちばん大切な母親から、愛されている実感を持てずに大きくなるので、将来、いろいろと心配なことが起きる可能性があります。

解決するにはまず、祖母の協力が不可欠です。今後、長男がわがままを言ったときに叱るのは、しばらく祖母にお願いして、母親は、まず半年間、できる限り叱らないようにしながら、長男としっかりスキンシップをとる。最初は抵抗することもありますが、次第に素直になってきます。やがて、今までできなかった分、べったり甘えてくるようになります。

このころには、まず、弟をむやみにたたくようなことはなくなっているはずです。ここまで来たら、多少、長男を叱っても大丈夫です。長男にとっては、母親も自分を大切にしてくれるし、祖母も自分を大切にしてくれる。子どもにとって、こんなうれしいことはありません。そうして初めて、子どもは明るく、思いやりのある子に成長していくことができるのです。

全国保育協議会月報より